

資料8

2008年9月4日
(社)日本旅行業協会



「空港法に基づき策定される基本方針について」

旅行者にとって空港は旅への玄関口であるとともに、その地域、国からの旅立ちの一步として大切な役割を担う。このため、空港へ行くことに「夢」があってほしい。

海外出張者には「やさしさとホスピタリティ」、観光旅行者には「夢」の実現へのワクワク感を演出していくことが特に重要。このことはハードのみならずセキュリティ要員を含むすべての関係従業者の対応などのソフト面についても。

ターミナル等施設のオリジナリティ、地域性も重要。

ヒヤリング事項

1) 空港を利用するに際し重視するポイントについて

1. 航空便の利便性

就航する定期路線と発着便数の多さ

国際ハブ空港との発着便数の多さ

2. 空港アクセスの利便性

都心(市の中心)からのアクセスと所要時間・運賃(早朝・深夜にも留意)

公共交通機関への乗り継ぎの利便性(バスよりは鉄道)

3. 空港内施設の利便性

チェックインから搭乗ゲートまで・到着ゲートから出口までの導線のあり方・距離
国内線・国際線の乗り継ぎのスムーズな導線
空港内施設の案内表示の分かりやすさ
出入国管理の時間、フレキシブルな対応
各種施設の充実度(待合・休憩施設、レストラン、売店、トイレ、駐車場等のほか、空間的なゆとり)

2) ユニバーサルデザイン等利用者の利便性確保のあり方について(個別・具体的な要望)

1. 空港アクセスの利便性促進

首都圏空港の24時間化の実現にあわせて、深夜早朝時間帯における空港へのアクセスの構築・改善
東京モノレール羽田線の車両の長編成化
成田から各エリアへのアクセスの選択肢を増やす
成田・羽田一体的活用のためのアクセス改善(京成・都営地下鉄・京急の快特増発等)
大阪の場合、関空～難波のアクセス改善のほか、大阪梅田を基点としたアクセス改善が望ましい

2. 空港内施設の改善(ターミナルビル外の施設(駐車場・駅など)を含む)

バリアフリー化(空港行きバスの乗車場所でも)
空港内案内表示の多言語化
空港内表示の簡素化と外国人が分かりやすい「言語とピクトグラム(図)」を用いた案内標識の導入促進
空港内移動手段として動く歩道・カート移動サービスの導入
各種施設の充実(休憩場所、待合施設、レストラン、売店、トイレ、アメニティ施設(仮眠室、シャワーブース等)、
コインロッカー、駐車場、ホテル)

3. システム面での改善

CIQ, セキュリティチェックの迅速化
空港内施設での電子マネーの導入促進

ソフト面では他の事業者との共通利用パスの促進(鉄道とバス、タクシー)

3) セキュリティ・セイフティ確保のあり方について

1. セキュリティ(保安)面で検討すべきこと

物理的手法による機械検査などによる所要時間の短縮
国際線と国内線の乗り継ぎ客に対するチェックの簡素化
混雑時のセキュリティ要員・ブースの増加
航空保険特別料金制度の見直し

2. セーフティ(安全)面で検討すべきこと

非常時(遅延・欠航)、災害(地震、大雪・、鳥、強風)時への対応
青森、花巻、大館、秋田は特に除雪対策の強化

4) 地域と連携した空港の利用及び活用の促進に向けた取り組みについて

1. 地方空港の国際化促進について

地方自治体等と連携し国際便就航促進プログラムの策定と実行
着陸料等の低廉化

2. 空港施設の活用促進について

地元物産ブランドの創造とその即売会の開催や物産展示
商業施設を併設し集客強化を図る
地域の観光案内や宿泊紹介などの案内所の充実

5) 近接空港(成田と羽田、関空と伊丹と神戸)間の役割分担その他連携の確保について

1. 成田と羽田間における役割分担と連携のあり方について

成田・羽田間のアクセスの高速化(例えばニア導入)を図り首都圏空港として 24 時間機能させる(両空港とも内際一体化した空港として機能強化する)

機能分担の判りやすさ

2. 関空と伊丹と神戸間の役割分担と連携のあり方について

関空と伊丹のアクセスの充実

関空 成田路線の開設(関空の国際線減便への対応)

3. その他の地域(東北・中部)の空港の役割分担のあり方について

東北圏内の航空の利便性向上のため、圏内にハブ機能を持つ拠点的な空港がひとつ必要
東京(羽田・成田)をハブとして東北地方の各空港への発着便ネットワーク網の構築を図る
中部圏における空港(中部空港・県営名古屋空港・静岡空港)間の役割分担の判りやすさ

4. その他

より緊密な連携と役割の明確化のため、自治体・空港会社・政府などの連絡会・検討会をさらに活性化させる。

6) 空港と連携した観光振興に向けた取り組みについて

1. 地方自治体及び関係団体との連携による展開

地方空港の国際化を進めるチャーター便の積極的な展開のため、運営母体を空港、地元自治体、旅行会社、観光振興団体、JR、地場企業、旅館組合等一体とした組織体で立ち上げる

既存の定期便の利用促進を の組織体と同様のかたちで一体となって取り組む

2. 観光振興に向けた企画について

海外との積極的な交流を図る姉妹都市提携や青少年交流を後押しするイベントの開催を空港で企画・後押し
チャーター便等のツアーの募集説明会の開催、空港ならではの特典。

歓迎イベントの開催

地方空港周辺地域でのVJC・VWC キャンペーンの更なる取り組み

空港発着の新たな観光ルート・短時間ツアーの開発と情報発信
地元自治体・観光振興団体からツアー企画への助成金の交付
空港を基点とした地域観光周遊バスの設定

7) 空港の整備、高質化、安全対策等に対する要望について

1. 定時就航率の向上を図るための方策として

就航率の向上にむけた ILS(計器着陸装置)の高カテゴリー化、双方向化等の促進

2. 空港の高質化に関連して

環境に配慮した取り組みの推進(太陽発電の導入等)

3. 空港内施設の利便性を図るための改善について

空港が高齢者、障害者が安心、快適に利用できるよう施設を改善(エレベーター、エスカレータの整備で段差の解消、動く歩道の設置で迅速化など)

利用者の立場に立った空港レイアウト、施設の配置を総合的に見直す(駐車場、レンタカー、公共交通機関、レストラン等)

8) 航空分科会審議に対する要望について

1. 首都圏空港問題に関連しての項目

成田、羽田の2010年の増枠が実現しても予想では10年後には再び首都圏の空港容量が満杯となるといわれるなか、アジアにおける国際ハブ空港としての競争力向上のための戦略構築

2. 地方空港問題に関連しての項目

近距離・地域間輸送の担い手としてのコミューター航空に着目し、地方空港の活用をもっと積極的に考えるべき。そのためにはコミューター航空の育成・補助等の支援。

9) その他

「新千歳空港」の現況における問題点として、航空自衛隊千歳基地に隣接していることから中国、ロシアなど旧共産国の航空機は空自訓練の無い土・日と、訓練の少ない水曜に限られているため発着が集中している。金曜は訓練の終了する午後5時以降の条件付のため利用が困難。これらの問題の解決。

以上

